



1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000823	
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会	
事業所名	グループホーム サンホーム青山	
所在地	兵庫県姫路市青山西2丁目17-11番地	
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく」過ごしていただけるよう、その方の暮らしに着目し作業療法士と介護士が共同してお一人お一人に合った日課や役割作りを持った生活が送れるよう「生活リハビリテーション」を提供させていただいています。また毎週1回「元気体操」を実施し、頭の体操や転倒予防体操などを実施しております。

・コロナ禍であるため、買い物やオレンジカフェ、地域交流は出来ていないが、毎月季節行事を実施し施設内や敷地内でも楽しめる工夫をしています。

・医療的に不安な方も安心して自分らしい生活が送れるよう訪問診療や訪問看護ステーションとの医療連携の体制があり、看取りの対応もできる環境が整っています。

・毎月1回各ユニットミーティングを実施。職員同士で意見交換し業務改善やケースカンファレンスを行っています。また勉強会も実施し(1/2ヶ月)、より専門的なアプローチを行えるよう職員のスキルアップに励んでいます。

開設当初から地域交流・地域連携に積極的に取り組み、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう努めている。今年度はコロナ禍のため通常の交流や外出が困難な状況であるが、感染予防策や時期を勘案し可能な方法で家族や地域との関係が継続できるよう工夫している。毎月利用者と一緒に制作する季節の壁面・プランターでの野菜や花の栽培・ドライブでの花の鑑賞・毎月の行事と行事食等、生活の中で季節感が感じられるように取り組んでいる。介護職員と作業療法士が共同し、利用者個々に応じた生活リハビリやレクリエーション等を通して、楽しみや役割を感じながら自立支援に取り組んでいる。法人の研修・事業所の勉強会・各種会議等により、職員の資質向上に取り組んでいる。訪問診療・訪問看護ステーションと連携を密にし、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は全職員が意識付け出来るようタイムカード横に掲示している。また職員全員、理念カードを携帯している。中途採用者には、入職時に理念の説明を行い、理念研修を取り入れている	法人の「理念」「基本方針」を共有し、「理念」の中に地域について言及している。「理念」「基本方針」をタイムカードの横に掲示し、理念カードに記載し周知を図っている。法人本部が配信する動画資料を使用して、毎年、年度初めに理念研修を実施し内容の理解を深めている。中途採用者には、入職時研修に理念研修を取り入れている。「理念」「基本方針」に基づいた各ユニットの「行動指針」を年度毎に作成し、また、各職員の目標管理の中に理念に関する個人目標を設定し、理念の実践に具体的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のオレンジカフェや買い物、挨拶運動はコロナ禍の為自粛中であるが、近隣への散歩は継続し顔馴染みの関係の構築を図っている。	通常は、散歩・買い物等の日常的な外出、「オレンジカフェ」「仲良し広場」等の地域行事、青山元気体操(週1回)・事業所の行事(毎月)、トライやるウィークの中学生やボランティアの受け入れ、下校時の挨拶運動等を通して、積極的に地域交流を行っている。今年度は交流や外出が困難な状況であるが、民生委員との連携や、感染予防対策を徹底した散歩・ドライブは継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェで、近隣住民の方へ施設の紹介を行い、地域の社会資源のひとつとして認知して頂いている。コロナ禍以前はトライやるウィークの受入れや行事、体操の案内、施設ウオークラリーへの参加をし地域の方々にもお越しいただき入居者様と交流があった。収束後も以前のように開放していきたい		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、運営状況の報告や事故、ヒヤリハット、相談件数などの報告を行い、意見を頂いている。また同地区の地域密着事業所とも報告や参加いただき意見交換や情報の共有をおこなっている。	通常は、利用者・家族・地域代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所管理者)・事業所からの参加者を構成メンバーとし、2か月に1回開催している。会議では、資料を配布し、利用者状況・運営状況・活動内容・ヒヤリハット事故事例等の報告を行い、情報共有や意見交換が活発に行われている。運営推進会議の議事録を玄関に設置し公開している。今年度は状況を勘案し、時期に応じて、会議開催と書面会議を併用している。書面会議の際は、構成メンバーに議事録を郵送し報告している。	郵送する議事録に、意見・情報・質問等の返信欄を付け、返信内容を次回の議事録で共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。また、家族にも、議事録を郵送してはどうか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修、地域ダイアログ会議などを通じて助言をいただいたり、地域の情報共有が行え相談しやすい関係性の構築が行えている。また民生委員とも密に連絡を取り、協力関係が築けている。	開設当社から、地域包括支援センター・民生委員との協力関係を築き、運営推進会議やその他の地域活動を通して連携を密にしている。「青山1000人会」主催の研修や「ダイアログ会議」に参加し、地域包括支援センターや青山地区の医療・福祉関連施設と連携している。今年度は、市からコロナ関連の最新情報の提供を受けて感染症予防対策に活用し、事業所からも報告し情報交換を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、入居者様の生活の実態をチェックリストに沿って職員で確認し、話し合いをすることで身体拘束についての知識付けが行えている</p>	<p>「身体拘束適正化のための指針」と「身体拘束マニュアル」を作成し、身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束等適正化委員会」を3ヶ月に1回開催している。委員会の前に各ユニットで「チェックリスト」の項目に沿って課題を抽出し、委員会の中で、前回の振り返りと今回の課題についての検討を行っている。継続的に「チェックリスト」の項目に沿ってケアを振り返ることにより、身体拘束や不適切ケアに関する職員の理解を深めている。委員会の議事録を回覧し、内容の周知を図っている。法人の年間研修計画とeラーニングを活用した資料研修を用いて、年に2回「身体拘束」に関する研修を実施し、研修レポート提出により全職員に周知を図っている。事業所独自の「青山勉強会」でも身体拘束についての勉強会を行い、同様の方法で周知を図っている。玄関は開錠に操作が必要であるが、館内の行き来は自由にでき、外出の意向があれば職員が対応し閉塞感を感じないように支援している。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>処遇改善加算研修での高齢者虐待のについての勉強を行っている。また身体拘束適正化委員会でも虐待と重複することが多いため確認でき職員の周知徹底が出来ている</p>	<p>「高齢者虐待防止」についても、上記「身体拘束適正化」と同様の方法で研修を実施し、また、「身体拘束適正化委員会」の中でも不適切ケアについての理解を深めている。法人としてストレスチェック、相談窓口の設置、「メンタルヘルス研修」を実施し、また、事業所としても管理者が定期的・随時の面談を行い、会議や研修で課題解決や不安軽減を図る等、職員のストレス等が、ケアに影響しないように取り組んでいる。</p>	

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の研修時に日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。運営推進会議に後見人の参加もあり、認知症高齢者への支援の方策として有効であることの理解が来ている。	事業所独自の「青山勉強会」の中で「権利擁護に関する制度」について研修を実施している。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、金銭管理や生活状況の報告など制度利用を支援している。時には運営推進会議に後見人の出席があり、連携している。今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり関係機関と連携して支援できる体制がある。	
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所見学いただき、契約前より十分な説明を行い契約時には関連書類を丁寧に説明し、理解いただいている。契約後も不明な点があれば、納得いただけるよう十分な説明を行っている	見学時に、パンフレット・料金表・資料(グループホームについて・サンホーム青山の特長等)を用いて説明をしている。契約時には、契約書、重要事項説明書、各種指針・同意書、リスク説明書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。説明の際は、特に、入院時・重度化対応、相談窓口等についてわかりやすく説明するよう配慮している。契約内容に改定がある場合は、改定部分を文書で説明し、文書で同意を得るようにしている。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。コロナ禍で面会自粛のため、日頃から家族様に利用者様の様子の報告を電話にて行い意見や要望を伺うようにしている	通常は、家族の面会時に近況を報告し、フロアに掲示した行事や生活の写真を見てもらい、毎月の行事に家族を招待する等、利用者の様子や事業所の活動を伝え、意見・要望が出やすいように取り組んでいる。意見箱も設置している。今年度は、面会は玄関スペースでガラス越しの面会としているが家族の来訪がある。また、毎月の「青山元気だより」と個別の「今月のひとコマ」の郵送を継続し、電話での報告をより頻回にする等、家族との意見・情報交換に努め、家族の意見を把握し反映できるよう取り組んでいる。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各ユニットミーティングや合同ミーティング時に運営に関する意見や課題、提案などの意見交換の場を設け、反映に活かしている	月に1回合同ミーティングとユニットミーティングを実施している。合同ミーティングでは、事業所全体の議題を採り上げ、業務改善・事故防止・感染症予防策等について検討している。ユニットミーティングでは、各ユニットの業務についての検討や利用者についてのカンファレンス等を行っている。毎月の行事についても、年間行事計画に沿って、担当職員を中心に職員の意見を反映している。管理者が、定期的には年2回、また、随時にも個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。エリア長との日々のメール連絡やエリア会議等を通して、管理者が職員の意見を上位者に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は目標シート・人事考課表等を用いて年2回目標が達成できたかどうか本人を交えてフィードバックしながら評価を行っている。評価が給与に反映され向上心をもって働けるような環境・条件に努めている。有期職員についても目標カードを作成し面談時に管理者と一緒に目標の達成度の確認を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での処遇改善研修とサンホーム青山独自の認知症ケアに関する勉強会を実施している。法人でも資格取得に向けた講習会も実施されており、職員のスキルアップに役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	双方の運営推進会議の参加や地域会議への参加、今は自肅中だがオレンジカフェへの参加などで地域内の同業者との交流があり互いの情報の共有や意見交換の機会になっている		

自己 者 第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族様と入居前面談を行い、傾聴し共感することで相談しやすい関係づくりに努めている。また以前の暮らしに着目し、その人らしく過ごしていただけるよう家族様に協力いただきお元気なころの暮らしの様子などをシートに記入いただいている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるにあたっての不安や要望などを聴き、可能な限り答えられるようにしている。ご本人やご家族の思い、希望などをサービスに取り入れるため、ご本人の以前の暮らしや意向などの書式にご記入いただいている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク段階で、生活機能やコスト面も含めグループホームが最適なサービスであるかを判断し、法人内外問わず、他サービス利用紹介、調整行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活の観点から可能な限り、ご本人の生活歴や残存機能、経験を活かしたその人の役割として出来る事を日課として職員と協力して一緒に行っていただいている。		

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子の報告を家族様に行い、元気なころの情報を頂いたり、本人様との面会や電話を通じて、よりその人のご意向に添ったサービスの提供に繋がっている。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活習慣や個人史の聴き取りにより、人間関係や馴染みのある場所について情報収集に努めている。コロナ禍になる前は、その方の馴染みの場所への外出を計画中だったため、収束後はご友人との面会や馴染みの場所へお連れする予定。	入居時の「面談記録」「基本情報」「センター方式アセスメントシート(家族記入)」等から、馴染みの人や場所について情報の把握に努めている。通常は家族・親戚・友人・知人の面会があり、ゆっくり交流できるよう支援している。散歩・ドライブ・買い物・外出行事を活用して、馴染みの場所にも出かけられるように支援している。現在は、外出や面会が困難な状況にあるが、感染予防対策を徹底し、時期を勘案しながら、可能な範囲で関係継続を支援している。コロナ禍以前に、利用者個々が「やりたい事ノート」を作成し、馴染みの場所への個別の外出を企画していた。終息後に、実施する予定である。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事後の配置はコミュニケーションが図りやすいように検討して決めている。行事や体操、外出などを通じてユニット間でも両ユニット間同士でも馴染みの関係が構築されており、自由に行き来されている。			
22			○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様には行事や体操などに参加頂きたい旨や、いつでも気軽にお越しいただけるようお伝えしている。			

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聴き取りやご家族からの情報、日々の言動やしぐさ、会話の内容などから想いを汲み取るように努めている。定期的にケースカンファレンスを実施し、状態の把握・情報の共有を行いご本人の思いに添えるよう話し合っている。	入居前面談で、利用者や家族の思いや暮らし方の希望を聞き、センター方式のアセスメントシートに記載し共有している。入居後に日々のコミュニケーション等で把握した内容は、「個人ファイル」「申し送りノート」に時系列で記入し、カンファレンス等で共有し支援に活かしている。意思の疎通が困難な場合は、利用者の表情・しぐさ・反応等をよく観察し汲み取るよう配慮し、家族の意見や情報も参考にしている。利用者担当の職員が把握した思いや意向を、「心身の情報(私の姿と気持ちシート)」を記入して6か月ごとに更新し、支援や介護計画に反映している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時での聞き取りや、契約時に生活歴、趣味習慣についての記載シートを家族様にご記入いただき把握している。また入居前の利用サービス事業者からも情報の提供を依頼し、把握に努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作業療法士、介護士、介護支援専門員が共同で生活の様々な場面に携わり、生活動作や趣味活動に密着したアプローチを行い、情報を共有している。		

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者様、ご家族のご意向やご意見、多職種の情報から介護計画を作成しており、定期的に、また必要に応じてケースカンファレンスを実施し、現在の状態に添ったケア方法など意見交換を行いケアの統一を図っている。</p>	<p>入居時に、「面談記録」「基本情報」「アセスメントシート」「センター方式アセスメントシート(家族記入)」等をもとに「施設サービス計画書」を作成している。日々の実施状況を、「ケアプランチェック表」「個人ファイル」「支援経過」・各種チェック表に記録している。サービス内容毎に実施状況を毎日チェックする「ケアプランチェック表」により、職員に計画内容を周知し、計画に基づいた実施状況の確認を行っている。毎月の各ユニットミーティングで利用者個々の状況や支援について、意見・情報交換している。3か月に1回、計画作成担当者が「モニタリング総括表」でモニタリング・評価を行い、定期的には6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。見直しの際は、「モニタリング総括表」「私の姿と気持ちシート」「アセスメントシート」をもとに「検討会議」で検討し、「施設サービス計画書」の原案を作成している。基本的には利用者・家族参加で「担当者会議」を開催し、原案をもとに検討を行っている。家族の希望や主治医等関係者の意見・助言は担当者会議議事録に記録している。</p>	
27			<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人ファイルへの記録、支援経過記録、業務申し送りノートなどで職員間で情報共有している。色んなアイデア方法を試してみて、成功例や見直し例など情報共有し介護の統一を図っている</p>		
28			<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々生まれるニーズに対し、本人様、家族様のご要望に添えるサービスの提供をしたり、柔軟に対応している。</p>		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の同業者や民生委員・大白書地域包括支援センターからの情報、町の回覧板などで地域資源の把握をしている。地域行事への参加は現在自粛中だが、散歩等を通じて地域住民の方と顔馴染みの関係の構築に努めている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医(訪問診療・訪問薬局・訪問歯科)がある事をお伝えし、説明した上でご本人・家族様が納得した医療が受けれるよう選択して頂いている。通院時には日頃のバイタル表や日常生活の様子などを主治医に報告している。	契約時に、協力医療機関の体制(訪問診療・訪問歯科・訪問薬局)の説明と希望のかかりつけ医の確認を行い、意向に沿った受診ができるよう支援している。訪問診療の際は、職員からの事前情報提供と医師による往診結果を「受診・健康管理記録表」に記録し情報共有している。通院受診の際は家族同行をお願いし、「支援経過記録」「バイタル表」等で医療機関に情報提供している。週2回の訪問看護の結果は「定期・臨時訪問報告書」に記録し、24時間連携体制がある。医療の結果は「居宅療養管理指導表」「申し送り表」「支援経過記録」にも記録し、共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の定期訪問時には、健康管理記録表に気になる点や最近の状態などを介護士が記入し看護師が状態の確認を行い、助言や必要に応じ主治医に報告している。定期訪問以外でも24時間連絡体制があり連携体制が整っている		

グループホーム サンホーム青山

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、グループホームでの生活状況や身体状況などの情報提供を行い、家族様、ソーシャルワーカーと情報共有を図り、病院に出向いて回復状況の把握に努めている。退院時には退院前カンファレンスに参加し、退院後の生活の環境整備にも努めている。	令和2年度は入院事例はない。通常、入院時には、利用者の「基本情報」で利用者の心身状況や生活状況など必要な情報を提供している。入院中は、家族と連携を密にし、通常は管理者や介護支援専門員が面会に行き、病院の看護師・地域医療連携室と情報交換を行っている。今年度は面会は困難な状況であるが、主に電話で状態を確認し早期退院に向け支援している。退院前や、また、病院から退院後に入居される場合にも、退院前カンファレンスに参加し、利用者の状況を把握している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、管理者・介護支援専門員・作業療法士等が連携して介護計画を見直し、退院後の生活環境を整備している。入院中に把握した情報は「支援経過記録」「申し送りノート」に記録し、情報共有している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、入居時に指針を用いて説明し意向を伺っている。入居者様の心身状況の適切なタイミングでご本人や家族様のご意向を確認する話し合いの場を設けプランの見直しを行ない主治医や訪問看護事業所との連携もより密に図りホームでの看取りを望まれる方への体制を整備している	契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所の方針を説明し、本人・家族の意向の確認をしている。重度化を迎えた段階で、主治医が家族に説明を行い、事業所も「重度化及び看取り介護に関する同意書」「急変時・終末期についての確認書」で再度説明している。看取り介護の希望があれば、看取り介護計画を作成し、主治医や訪問看護師と24時間連携を図り、家族の意向を確認しながら支援に取り組んでいる。法人の年間研修計画をもとに「ターミナルケア」研修を実施している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修を行っている。また、緊急時発生の場合の対応手順をすぐに見られるよう各ユニット内の電話にラミネートしづら下げている。入職時は必ず緊急時の対応の手順を職員に周知している。AEDの使用方法や設置場所についても説明を行っている		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例(年2回)の通報、災害や火災想定での避難訓練、消防点検)を実施している。またBCPを整備し災害時の備品設置場所や避難方法なども職員に周知している。入居者様には要援護者台帳に登録し地域で把握出来ている。	年2回、日中・夜間想定で、火災・地震想定での総合訓練(通報・避難・消火)を実施している。利用者も訓練に参加し、設備業者が立ち会い、避難方法や避難経路等の助言を受けている。法人の年間研修計画をもとに、「非常災害時の対応」研修も実施している。緊急連絡網を作成し、災害に備えて地域の消防団・民生委員と連絡が取れる体制があり、短縮ボタンで管理者が即対応できるよう工夫している。水や食料の備蓄は常温・冷蔵・冷凍に分けて2階に保管し、備品も2階に備蓄している。	「訓練実施記録」に実施状況・職員の感想や反省・立ち合い業者の助言などを記録し、回覧や合同ミーティングで共有することが望まれます。また、コロナ禍終息後は、地域の防災訓練に職員が参加したり、事業所の避難訓練に近隣施設や地域住民に見学や参加を呼び掛ける等、地域との協力関係が築ける機会作りを行ってはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内での接遇研修やプライバシー保護研修を実施し、全職員が入居者様の尊厳を第一に考え、自尊心・羞恥心に十分配慮しながら声掛けや対応を行っている	法人の研修と事業所独自の勉強会で、「プライバシー保護」「接遇」「認知症ケア」「拘束・虐待」研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応については学ぶ機会を数多く設け、職員間で共有し、意識向上に取り組んでいる。個人情報に関わる書類・ファイル等は、鍵付きの書庫で保管している。写真を外部に出すことはなく、「おたより」と館内掲示について、入居時に説明し口頭で同意を得ている。	今後、ホームページ・ブログ・広報誌等、事業所外に向けて写真・映像を使用する機会があれば、利用者・家族に文書で意向確認してはどうか。

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様ひとりひとりの出来る事や出来ない事、出来ないけどしたい事、出来るけどしたくない事など情報収集での把握とともに日常的なコミュニケーションの中でのしぐさや何げない一言などから想いを汲み取り、自己決定しやすいような声掛け心掛けています		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者様優先を常に念頭におきその人その人の生活リズムに合わせて、その人の希望を確認しながら支援している		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時にホットタオルを提供し、モーニングケアをしている。衣類の選択もいつも同じ物にならないよう、職員が声掛けしながら一緒に着替えを選んでいただいている。衣服の綻びがあれば、職員と利用者様で補正をしたり、家族様に補充をお願いしている。カットなど訪問美容も利用いただいている		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みの確認や、日頃の食事の様子で嗜好を知り、希望に添うようにしている。食事の準備や調理、片付けを一緒に行いコミュニケーションを図り楽しく食事が出来る雰囲気づくりをしている。	利用者の希望・季節感・行事食を採り入れて献立をたて、各ユニットで調理し、毎食手作りの食事を提供している。利用者の希望・力量を活かして、食事の準備や調理・食器洗い等を一緒に行えるよう支援している。利用者の状況・病態に応じて、ミキサー食・ソフト食・刻み食を提供している。食事の時間にオルゴールを流し、穏やかな雰囲気ですることができるよう工夫している。年2回食事アンケートを実施し、結果を献立に反映している。ホットプレート調理・おやつ作り(おはぎ・ケーキ等)に利用者もできる限り参加し、一緒に楽しく活動できる時間を大切にしている。また、お花見メニュー・居酒屋メニュー・そうめん流し・スイカ割り等趣向を凝らし、利用者参加型のイベントを企画して食事が楽しめるよう取り組んでいる。	

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は必ず確認し記録している。献立も栄養バランスを考えて立てている。食欲がない時や体調不良の日など臨機応変にその日メニューに囚われず、食事形態の調整や食べれる物、食べたい物、栄養補助食品の提供や水分摂取が苦手な方にはゼリー状にして提供するなど工夫をしている		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、セッティング、見守りを行い実施。歯磨きが困難な方には口腔ウエットティッシュや口腔スポンジなどで拭き取りを行っている。口腔環境を確認し、必要に応じて家族様に歯科受診や歯科往診をお勧めし口腔内の清潔の保持、義歯等の不具合の改善を行っている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意が上手く訴えられない方や尿意や便意が分からない方などは排泄表等でその方の排尿パターンの把握に努め、その方のサインを見逃さない様に職員は意識し、羞恥心に留意しながらトイレ誘導や声掛けをしている。失敗が減ることでのその方の羞恥心や焦燥感の軽減に繋がっている	排泄の自立度が高い利用者が大部分を占めているが、ベッド上でのおむつ交換もあり、自立度に個人差が大きい状況である。「排泄管理表」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、また、個々の行動パターンから察知し、個々に応じたタイミングで、可能な限りトイレでの排泄、排泄の自立の継続を支援している。介助方法やタイミング、排泄用品について、「申し送りノート」やパターン把握のためのシートで共有している。ユニットミーティング等で、看護師の意見も交えて検討し、現状に即した介助方法や排泄用品の使用につなげている。トイレ誘導・おむつ交換時はさりげなく声かけを行い、ドアの閉鎖に留意する等、プライバシーや羞恥心に配慮している。	

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操やおやつ前のフロア内での歩行訓練、週1回の青山元気体操などで運動の機会を提供し、食物繊維の多い食事の提供や乳製品、乳酸菌飲料、果物を提供している。排泄表にて滞便がないか管理し水分摂取の促しや必要に応じて主治医に相談している		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めず、本人のご意向やタイミングに合わせ声掛けし、ご自身のペースで入浴して頂いている。どうしても入浴困難なときは清拭対応をしている。季節感を味わっていただけるよう、ゆず湯や入浴剤、アロマなどを適宜使用している。	利用者の意向やタイミングに合わせて、曜日や時間を決めず、週2回以上入浴できるよう支援している。実施状況は「入浴管理表」で確認している。個浴槽で、一人ずつ湯を交換をし、自身のペースでゆっくり入浴できるように支援している。必要に応じて作業療法士に相談し、安全な入浴方法について助言を受けられる体制がある。リフトの設置があり、状態に合わせて使用している。同性介助を基本とし、入浴前に着替えを一緒に選んだり、入浴剤・アロマ・ゆず湯を使用する等、入浴が楽しくなるよう工夫している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は消灯時間は決めず、その方の生活習慣に合わせて休んでいただいている。昼夜逆転傾向にあるかたには日中の活動量を増やしたり、日光浴をして頂いている。夜間不穏時には傾聴したり、温かい飲み物を提供するなど安心感を得られるよう支援している		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の薬剤情報を管理し、把握している。内服薬の変更があった場合は職員全員に周知を行い、その後の体調の把握に努め、変わった様子があれば、訪問看護師、主治医に報告を行い、指示を仰いでいる		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式でアセスメントを実施。その方の生活歴や興味のある事の把握に努め、その方の日課や役割の提供、その方にとって意味のあるアクティビティーを提供し、張り合いや楽しみのある生活を送っていただけるよう支援している		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、買い出しや外食、屋内施設への外出は行っていないが、近隣の散歩や、公園、ドライブに出かけたり、屋外敷地内でおやつタイムをしたり、日向ぼっこをして気分転換をして頂いている。収束後には家族様に協力いただきご本人の馴染みのある場所、思い出の場所などに外出を検討している。	通常は、散歩・買い物・喫茶などの日常的な外出、地域行事への参加、季節ごとの外出行事など、外出支援に積極的に取り組んでいる。今年度は外出が困難な状況であるが、感染予防対策を徹底し、近隣への散歩や公園への外出、季節の花を楽しむドライブは継続している。また、敷地内のスペースにパラソルやベンチを出して、おやつタイム・体操・外気浴等を行い、玄関前のプランターで花や野菜を栽培する等、外気に触れ気分転換する機会を設けている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が預り金として金庫でお預かりしている。買い物時は職員と一緒に掛付け精算はご本人が出来るよう支援していたが、現在は外出自粛のため、ご本人が精算する機会はない。		

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みのある方は自由にお電話されている。家族様には職員から電話し、ご本人と代わって会話して頂いている。また家族様に依頼してお手紙を頂いたりしているが、ご本人が書かれる事は出来ない。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に毎月一緒に作成した季節の壁飾りを貼ったり、外出や行事の時の写真を壁に貼り、目でも楽しめる工夫をしている。	各ユニットの共用空間は広々しており、テーブル席・テレビ・ソファ・畳コーナーがあり、新聞・雑誌・広報誌等を設置し、思い思いに居心地良く過ごせる環境である。利用者の残存能力を生かせるよう、キッチンでは一緒に調理・食器洗いをし、日常的に掃除機がけ・拭き掃除・洗濯物干し・たたみ等に参加できるように支援し、家庭的な雰囲気が味わえるよう配慮している。毎月利用者と一緒に制作した、趣向を凝らした季節の作品を壁に飾り、行事や生活の様子を写真に掲示し、季節感や生活感を感じられるよう工夫している。毎朝のラジオ体操・週1回の青山元気体操・おやつ前の歩行訓練・食前の口腔体操(歌を歌う)等、共用空間での生活習慣が生活リハビリとして機能の維持向上につながるよう支援している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のソファや地域交流スペース、食事の席、居室など思い思いの場所で気の合った方同士で過ごされたり、休みたいときは自由に居室に戻り一人の時間を過ごされている		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの置物や思い出の写真飾ったり、愛着のある物を家族様に持って着ていただいたしている。部屋番は自宅のように○丁目○番地と記し自宅のようにご本人が安心して居心地の良い空間づくりに配慮している。	居室の表札に番地と名前を記し、自宅のように過ごせるよう工夫している。居室にはベッド・たんす・エアコン・壁掛け鏡などが設置され、好みの色のカーテンを選んでかけている。サイドテーブル・椅子・ハンガーラック・テレビ・冷蔵庫等など使い慣れたものや、写真・置き物など好みのものが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。大きな窓からの採光があり室内は明るく、毎日利用者と一緒に掃除し清潔が保たれている。利用者担当職員を設け、家族と相談しながら、衣替え等の環境整備を行っている。利用者の状況・動線に応じて家具・ベッドの配置を工夫し、L字バーや福祉用具を使用する等、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所・居室やトイレが分かりやすいように表示し手すりを設置している。トイレの座位が不安定な方がしっかり座って排泄出来るよう跳ね上げ式のレストテーブルを設置している。居室内も必要に応じてその方の身体状況に応じて環境整備を行っている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I-4	運営推進会議を書面にて実施した際に、郵送する資料に意見・情報・質問などの返信欄をつける等し、次回の運営推進会議で共有するなど、書面会議での意見・情報交換が行える工夫がなされていない。	コロナ禍における、書面会議等でも意見・情報交換が行えるような工夫をする	・書面会議資料に意見・情報・返信欄を設け、共有を図る。	2ヶ月
2	III-35	防災訓練の訓練実施記録はあるが、職員の感想や反省・立ち合い業者の助言等の記録の共有が出来ていない。	訓練実施記録の共有を行い、改善が出来る	訓練実施記録の回覧をし、反省点や改善点の話し合いの場を設ける。	6ヶ月
3	III-35	地域の防災訓練への参加や事業所の訓練に近隣施設や地域住民に見学や参加を呼び掛けるなどの地域との協力関係が築ける機会作りが必要	災害時などの地域との協力体制の構築	・地域の防災訓練へ参加する ・事業所の訓練時に民生委員や包括支援センターの参加を募る。コロナ感染症の状況により、近隣住民や事業所の方にも見学・参加を募る	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。